

SilkCentral Test Manager 12.0



Manual Testing
Client

Micro Focus
575 Anton Blvd., Suite 510
Costa Mesa, CA 92626

Copyright © 2012 Micro Focus. All rights reserved. SilkCentral 管理モジュールは Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2012 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。


2012-03-08


目次

Manual Testing Client	4
Manual Testing Client のユーザー インターフェイス (UI) の概要	4
Manual Testing Client をインストールする	9
Manual Testing Client をアンインストールする	10
Manual Testing Client でのテスト	10
Test Manager パラメータを説明テキスト ボックスに挿入する	11
Manual Testing Client を設定する	11
接続パラメータを設定する	11
その他の設定を行う	11
パッケージのアップロードに関する設定を行う	12
Manual Testing Client で添付ファイルを管理する	12
画面キャプチャを貼り付ける	12
添付ファイルを Manual Testing Client にアップロードする	13
Manual Testing Client で添付画像を表示する	13
Manual Testing Client で添付情報を確認する	13
実行パッケージで作業する	13
実行パッケージをダウンロードする	13
実行パッケージをエクスポートする	14
実行パッケージをインポートする	14
パッケージ ビルド番号を編集する	14
テスト結果を Test Manager にアップロードする	14
アップロード時に競合する変更を管理する	15
テスト結果を Test Manager に格納する	15
Manual Testing Client で内部の問題を追加する	15
Manual Testing Client でのコード分析を有効にする	16
Manual Testing Client でオフライン作業をする	16
テストの実行 ダイアログ ボックス	16
Manual Testing Client でのビデオ キャプチャ	19
Manual Testing Client でビデオを録画する	19


Manual Testing Client

Manual Testing Client は、手動テストの効率的な実行に必要なすべての機能を提供する Eclipse ベースのクライアント ツールです。このクライアントにより、テスト担当者はインターネットに接続することなくテストを管理し、テストを編集し、結果を追跡できます。

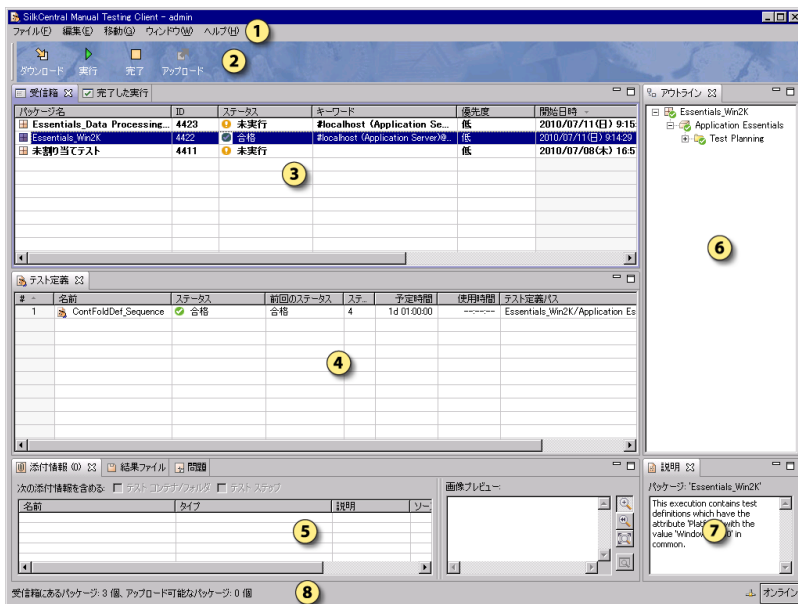
 **ヒント:** 多くのユーザーが並行して手動テストを行っている場合、Manual Testing Client (Eclipse ベースのクライアント ツール) を手動テストの実行に使用することを推奨しています。

 **注:** Manual Testing Client は、コード分析情報によるテストの実行をサポートします。既に Test Manager 内でテスト実行のときにコード分析情報を収集できるようになっている場合は、その設定を Manual Testing Client で自動的に使用できます。コード分析は、実行計画に対しても、Manual Testing Client から有効にすることができます。

Manual Testing Client のユーザー インターフェイス (UI) の概要

 **注:** Eclipse は、そのビューが初めて有効になるまでは、ビューを初期化しません。そのため、Manual Testing Client 内のタブにはそのタブを選択するまで内容が表示されないものがあります。たとえば、**添付情報** ページでは、そのタブを選択するまで、追跡する添付ファイルの数が表示されません。

Manual Testing Client の UI の主な 8 つの領域には、以下の画像が表示されます。



- 1 メニュー バー
- 2 ワークフロー バー
- 3 受信箱/完了した実行
- 4 テスト定義
- 5 添付情報/結果ファイル/問題
- 6 アウトライン
- 7 説明
- 8 ステータス バー

メニュー バー

メニュー バーには、テストやビューを編集するオプションが用意されています。このメニュー バーを使用して、ユーザーや外観、テスト設定を編集したり、実行パッケージ間を移動したり、ヘルプ にアクセスしたりすることができます。以下のリストに、使用可能なメニューを示します。

メニュー 説明

—

ファイル ワークフロー バーと同等の機能のほか、パッケージのインポート/エクスポート、ユーザーの変更、Manual Testing Client のオンライン/オフライン モードの切り替え、実行済みパッケージの結果の Test Manager への保存などを行うための、追加機能が提供されています。

編集 編集メニューには、以下の項目があります。

項目	説明
<ステータス> として設定	実行パッケージまたはテストの実行ステータスを、選択したステータスに設定します。
結果ファイルの追加...	結果ファイルを実行パッケージまたはテストに追加します。
ビルド番号を編集...	実行パッケージのビルド番号を選択します。
コード分析設定の編集...	実行パッケージのコード カバレッジ実行に含めるホスト名を指定します。ホスト名はカンマで区切る必要があります。例：labmachine1, 192.168.0.1:19129。
削除	実行パッケージを削除します。実行が完了している実行パッケージのみ削除します。

移動 利用可能な実行パッケージとテストの間を移動します。

ウィンドウ Manual Testing Client のビューやプリファレンスを編集します。このメニューには、以下の項目があります。

項目	説明
ビューの表示	Manual Testing Client の ワークスペース で使用可能なビューを有効化/無効化します。
パースペクティブのリセット...	現在の Manual Testing Client パースペクティブをデフォルトの状態にリセットします。
設定....	Manual Testing Client のプリファレンスを設定します。

ヘルプ Manual Testing Client のドキュメントや **バージョン情報** ページにアクセスします。

ワークフロー バー

ワークフロー バーを利用することにより、ユーザーは、Manual Testing Client で実行することのできる基本機能へ手軽にアクセスすることができます。次のボタンを、ワークフロー バーで利用することができます。

ボタン	説明
ダウンロード	Test Manager から実行パッケージをダウンロードします。
実行	Manual Testing Client のテストを実行します。
完了	テストが完全に実行される前に、テストの実行を停止します。
アップロード	Test Manager へ実行パッケージをアップロードします。



受信箱

受信箱 には、手動実行用に Manual Testing Client にダウンロードされた実行パッケージがすべて一覧表示されます。**受信箱** ウィンドウでは、Windows の標準キーボード ショートカットを使用して、複数の実行パッケージを選択できます。**受信箱** には、選択したテストの以下のプロパティが表示されます。

プロパティ 説明

パッケージ名 Test Manager からダウンロードされた実行パッケージの名前。

ID この実行パッケージ用に生成された実行パッケージ番号。

ステータス 実行パッケージのステータス。ステータス値は、**完了した実行** ページでは編集できません。選択可能な値は、[未実行]、[合格]、[失敗]、[未解決]、および [未サポート] です。実行パッケージのステータス値は編集できません。パッケージ全体のステータスは、パッケージに含まれるテスト ステータスの構成とテスト ステップのステータスの拡張によって決まります。たとえば、パッケージに含まれるテストの 1 つであるテスト ステップのステータスが [失敗] である限り、パッケージ全体のステータスは [未実行] のままになります。そのため、テストのステップのいくつかが合格していても、パッケージが完成して、未実行のテストのすべてに **実行の完了** ダイアログ ボックスでステータスを割り当てるまでは、パッケージ全体のステータスは [未実行] のままになります。パッケージ内の 1 つ以上のテスト ステップまたはテストが Passed で、未実行のステップとテストのすべてが **実行の完了** ダイアログ ボックスから解決されると、全体のステータスが **合格** と見なされます。

優先度 実行パッケージの優先度。

キーワード 実行パッケージに割り当てられているすべてのキーワード。

開始日時 実行パッケージのテストが開始された日時。

プロジェクト 実行パッケージの継承元である Test Manager プロジェクトの名前。

バージョン 実行パッケージの由来元である製品バージョン。

ビルド 実行パッケージの由来元である製品ビルド。

実行パス Test Manager の **実行計画** ツリーでこの実行計画が存在するファイルパス。

完了した実行

テストが完了しているすべての実行パッケージが **完了した実行** ページに一覧表示されます。**完了した実行** ページには、選択された実行パッケージに対して、次のプロパティが表示されます。

プロパティ 説明

! この列には、対応する実行パッケージのアップロード ステータスを示すステータス アイコンが表示されます。赤矢印アイコンは、パッケージの結果がまだアップロードされていないことを示します。薄色の矢印の上にチェックマークが付いたアイコンは、パッケージの結果がすでにサーバーにアップロードされていることを示します。このアイコンをダブルクリックすると、この実行パッケージの最初のテストについて **テストの実行** ダイアログが開きます。

パッケージ名 Test Manager からダウンロードされた実行パッケージの名前。

ID この実行パッケージ用に生成された実行パッケージ番号。

ステータス 実行パッケージのステータス。ステータス値は、**完了した実行** ページでは編集できません。選択可能な値は、[未実行]、[合格]、[失敗]、[未解決]、および [未サポート] です。実行パッケージのステータス値は編集できません。パッケージ全体のステータスは、パッケージに含まれるテスト ステータスの構成とテスト ステップのステータスの拡張によって決まります。たとえば、パッケージに含まれるテストの 1 つであるテスト ステップのス

プロパティ 説明

ステータスが [失敗] である限り、パッケージ全体のステータスは [未実行] のままになります。そのため、テストのステップのいくつかが合格していても、パッケージが完成して、未実行のテストのすべてに **実行の完了** ダイアログ ボックスでステータスを割り当てるまでは、パッケージ全体のステータスは [未実行] のままになります。パッケージ内の 1 つ以上のテスト ステップまたはテストが Passed で、未実行のステップとテストのすべてが **実行の完了** ダイアログ ボックスから解決されると、全体のステータスが **合格** と見なされません。

優先度 実行パッケージの優先度。

キーワード 実行パッケージに割り当てられているすべてのキーワード。

開始日時 実行パッケージのテストが開始された日時。

終了日時 実行パッケージのテストが終了した日時。

プロジェクト 実行パッケージの継承元である Test Manager プロジェクトの名前。

バージョン 実行パッケージの由来元である製品バージョン。

ビルド 実行パッケージの由来元である製品ビルド。

実行パス Test Manager の **実行計画** ツリーでこの実行計画が存在するファイルパス。

テスト

テスト ページには、前述の **受信箱** ページまたは **完了した実行** ページで選択した手動テストに関するすべての情報が表示されます。

テスト ウィンドウでは、Windows の標準キーボード ショートカットを使用して、複数のテストを選択できます。選択したテストにステータスの変更を適用するには、選択対象を右クリックして、コンテキストメニューから新しいステータス値を選択します。

テスト ページには、各テストの以下のプロパティが表示されます。

プロパティ 説明

テストに対して自動的に生成された番号。

名前 テスト名。

ステータス テストのステータス。選択可能な値は、[未実行]、[合格]、[失敗]、[未解決]、および [未サポート] です。この値は、現在の値を右クリックして、コンテキストメニューから代わりの値を選択すると、変更できます。

前回のステータス このテストが現在のステータスになる前に持っていたステータス。

ステップ 選択した手動テストのステップ数。

予定時間 テストの完了見積もり時間 ([hh:mm:ss])。

使用時間 このフィールドは、テスト実行開始からの経過時間 ([hh:mm:ss]) を追跡記録します。このフィールドは手動で編集できます。編集中、タイムは停止します。このフィールドの編集後、タイムは手動調整後の時間を起点に追跡を続行します。

テストパス Test Manager の **テスト** ツリーでこのテストが存在するファイルパス。

添付情報

添付情報 ページには、選択した手動テストに関する添付情報が表示されます。このページは、**テストの実行** ダイアログ ボックスでも利用できます。

テスト ウィンドウでテストを選択した場合は、値の **次の添付情報を含める** を選択して、表示されている添付情報のリストを補足することもできます。 **テスト コンテナ/フォルダ** を選択すると、選択したテストのテスト コンテナまたはテスト フォルダのすべての添付情報が表示されます。また、 **テスト ステップ** を選択すると、テストのテスト ステップの添付情報が表示されます。

添付情報 ページには、各添付情報の以下のプロパティが表示されます。

プロパティ 説明

名前	添付ファイルの名前。
タイプ	添付情報のタイプ。
説明	添付情報について作成された説明 (存在する場合)。
ソース	Test Manager の テスト ツリーでこの添付情報のテストが存在するファイルパス。
画像プレビュー	添付情報が画像の場合は、 画像プレビュー コントロールを使用して添付情報を表示できます。画像を右クリックするか、ウィンドウの右側にあるボタンをクリックして、以下のコマンドにアクセスします： 100% 表示 、 描画領域の幅に合わせる 、 描画領域に合わせる (縦横比を保存) 。 独立したウィンドウで開く をクリックすると、別のウィンドウに 画像プレビュー が開きます。

結果ファイル

結果ファイル ページには、選択した手動テストに関する結果ファイルが表示されます。このページは、 **テストの実行** ダイアログ ボックスでも利用できます。 **結果ファイル** ページには、各結果ファイルの以下のプロパティが表示されます。

プロパティ 説明

名前	結果ファイルの名前。
ソース	Test Manager の テスト ツリーでこの結果ファイルのテストが存在するファイルパス。
ファイルの追加...	クリックすると、このテストにアップロードする新しい結果ファイルを参照し選択できます。
画像の貼り付け...	クリックすると、使用しているコンピュータのクリップボードから画像を貼り付け、その画像をこのテストに添付できます。
削除	クリックすると、選択した結果ファイルの添付がこのテストから解除されます。
画像プレビュー	結果ファイルが画像の場合は、 画像プレビュー コントロールを使用して結果ファイルを表示できます。画像を右クリックするか、ウィンドウの右側にあるボタンを使用して、以下のコマンドにアクセスします： 100% 表示 、 描画領域の幅に合わせる 、 描画領域に合わせる (縦横比を保存) 。 独立したウィンドウで開く をクリックすると、別のウィンドウに 画像プレビュー が開きます。

問題

問題 ページには、選択した手動テストに関する問題が表示されます。このページは、 **テストの実行** ダイアログ ボックスでも利用できます。 **問題** ページには、各問題の以下のプロパティが表示されます。

問題 ID	この問題に割り当てられた ID。
概要	この問題に対して書かれた概要。
ステータス	この問題のステータス。
外部 ID	この問題が外部の問題追跡システムで追跡されているかどうかを示します。この問題を外部の問題追跡システムで追跡し、その問題に ID が割り当てられている場合は、このフィールドでその外部 ID 番号をクリックすると、外部の問題追跡システムにあるその問題に直接リンクできます。

作成日時 この問題が作成された日時。
作成者 この問題を作成したユーザー。

アウトライン

選択した実行パッケージのコンテンツ ツリー、または、実行パッケージにおいて選択したテストの場所を表示します。

説明

選択した実行パッケージまたはテストの説明を表示します。

ステータス バー

現在アクティブになっているビューにある、実行パッケージまたはテストの現在の数およびステータスが表示されます。

ボタン

説明

オンライン/オフライン これをクリックすることにより、Manual Testing Client のモードがオンラインとオフラインの間で切り替わります。

Manual Testing Client をインストールする

Manual Testing Client は Test Manager とは別の実行可能ファイルです。Java Web Start 技術を利用して、Manual Testing Client は、ネットワーク上からシングル クリックで配置できます。Java Web Start は、Manual Testing Client の最新バージョンが配置されているだけでなく、Java Runtime Environment (JRE) が正しいバージョンであるかも確認します。

前提条件 : Manual Testing Client で Java Web Start 技術を使用するには、お使いのコンピュータ上に、Java Runtime Environment (JRE) バージョン 6 以降がインストールされている必要があります。JRE は、<http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp> からダウンロードできます。

または、**ヘルプ > ツール > Manual Testing Client** に移動して、お使いのコンピュータへ Manual Testing Client をインストールすることもできます。



ヒント: Manual Testing Client を開始するには、**スタート > プログラム > Silk > SilkCentral > Test Manager 12.0 > Manual Testing Client** に移動します。

Manual Testing Client をインストールし起動するには :

1. たとえば、手動テスト通知電子メール内などにある、Manual Testing Client Web Start URL (<http://<Test Manager host>:<port>/webstart/mtc/>) へのリンクをクリックすると、**ファイルのダウンロード** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **開く** をクリックします。

Manual Testing Client がお使いのコンピュータにインストールされていない場合、**Java Web Start** ダイアログ ボックスが開き、Manual Testing Client のダウンロードが直ちに開始します。ダウンロードは数分かかる場合があります。Manual Testing Client がお使いのコンピュータにすでにインストールされている場合には、Manual Testing Client が開くため、これ以降のステップは必要ありません。

ダウンロードが完了したら、**警告 - セキュリティ** ダイアログ ボックスが開き、このデジタル署名されているアプリケーションを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3. **この発行者からのコンテンツを常に信用します** チェック ボックスをオンにし、**実行** をクリックします。Manual Testing Client が開きます。

Manual Testing Client をアンインストールする

Manual Testing Client をアンインストールするには：

1. コマンドライン ウィンドウを開きます。
2. Windows コマンドライン ウィンドウで、javaws -viewer と入力し、**Enter** を押します。 **Java キャッシュ ビューア** が開きます。
3. **表示** リスト ボックスで、アプリケーション を選択します（選択されていない場合）。
4. テーブルには、Manual Testing Client - Web Start が表示されるはずですが、このアプリケーションを選択し、ツールバー上にある削除ボタン (X) をクリックします。
5. これで、お使いのコンピュータから Manual Testing Client が削除されたので、**Java キャッシュ ビューア** および **Java コントロール パネル** の各ダイアログ ボックスを閉じます。

Manual Testing Client でのテスト

編集モードである場合、Manual Testing Client にはテストのすべての編集機能が用意されています。これにはテスト ステップの削除、順序変更、追加やステップ プロパティの挿入が含まれます。手動テストのプロパティは、オンラインとオフライン モードの両方で編集できます。オフライン モードでの変更は、インターネット接続が利用可能であるときに常にサーバーと同期できます。

編集モードでは Test Manager の Web クライアントで編集できるすべてのテスト要素の編集が可能になります。詳細 ページには、以下の値が表示されます。

- 予定時間
- ステップ名
- ステップ プロパティ
- ステップの説明
- 期待される結果

説明 ページで **テストの説明** フィールドを編集でき、ステップ プロパティのパラメータを挿入できます。

編集モードでは、**テスト** ウィンドウで複数のテスト ステップを Windows の標準キーボード ショートカットで選択できます。選択したテスト ステップにステータスの変更を適用するには、選択対象を右クリックして、新しいステータス値を選択します。

編集モードではない場合は、**結果** 列へのテスト結果の入力と、個別のテスト ステップやテストのステータスの編集のみが可能で、ステータス値を右クリックして、代替のステータスを選択して変更します。

 **注:** データ駆動型のテストの編集はサポートされていません。

パラメータ

ステップ プロパティのパラメータは、テストとテスト ステップの説明に挿入できます。パラメータは **テストの説明**、**ステップの説明**、**期待される結果** の各フィールドに挿入できます。編集モードではない場合、パラメータ値は解析された値に解決され、パラメータ自体は表示されません。編集モードでは、パラメータは解決されず、パラメータ自体が表示されます。編集モードでは、**説明** タブのツールバーで **パラメータ** リスト ボックスを使って、挿入対象の事前構成した Test Manager パラメータを選択できます。

競合する変更の処理

Manual Testing Client のオフライン編集機能を使うと、複数のユーザーが同じテストを同時に編集できません。変更競合 (2 人のユーザーが同時に同じ手動テスト ステップを編集するなど) がない場合は、Test Manager によりアップロードされたすべての変更は **テスト** ツリーで自動的にマージされます。別のユーザー

ザーによる最後の変更とアップロードした変更が競合する場合は、**テストの競合** ダイアログ ボックスが開き、競合に対応できます。

テストの競合 ダイアログ ボックスを使うと、変更をテストの一部として保存し、テストの次回の実行に含める、または無視するかどうかを指定できます。変更を無視することを選択する場合でも、テスト実行のテスト結果の一部として残ります。

Test Manager パラメータを説明テキスト ボックスに挿入する

Test Manager パラメータを説明テキスト ボックスに挿入するには：

1. Manual Testing Client の編集モードで、**テストの実行** > **説明** または **テストの実行** > **詳細** に移動します。
あらかじめ構成された Test Manager パラメータは、**テストの説明**、**ステップの説明**、**期待される結果** の各テキスト ボックスに挿入できます。
2. カーソルをテキスト ボックスに移動します。
3. ツールバーの **パラメータ** をクリックします。
4. リスト ボックスから設定済みの Test Manager パラメータを選択します。

Manual Testing Client を設定する

このセクションでは、Manual Testing Client を設定する方法について説明します。

接続パラメータを設定する

接続パラメータは、Manual Testing Client を初めて起動したときに自動的に設定されます。

ログイン認証情報を編集し接続を検証するには：

1. Manual Testing Client で、**ウィンドウ** > **設定** に移動します。 **環境設定** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **Test Manager サーバーの URL** テキスト ボックスに、Test Manager インストールの URL を入力します。
3. アプリケーションを次回起動したときに Manual Testing Client によってログイン認証情報を自動的に挿入する場合は、**認証情報を保存する** を選択します。
4. Test Manager の **ユーザー名** と **パスワード** を入力します。
5. **接続の検証** をクリックして、ログイン設定をテストします。
6. 確認ダイアログ ボックスで **OK** をクリックします。
7. 設定を保存するには、**OK** をクリックします。

その他の設定を行う

その他の設定を行うには：

1. Manual Testing Client で、**ウィンドウ** > **設定** に移動します。 **環境設定** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **その他の設定** セクションで、以下の 1 つまたは複数のチェック ボックスをオンまたはオフにします。
添付ファイルを自動的にダウンロード 実行計画パッケージが Test Manager からダウンロードされるときに、添付ファイルを自動的にダウンロードします。割り当てられて

いる実行パッケージをダウンロードした後でオフライン作業をする場合には、このオプションを有効にする必要があります。

パッケージの完了時にビルド番号を要求

パッケージを Test Manager にアップロードする前に、テストの実行対象となったビルドの番号を要求する画面が表示されます。

実行ダイアログ ボックスを常に最前面に表示

手動テストを実行しやすくするために、コンピュータ デスクトップ上に開かれている他のウィンドウより前面に **テストの実行** ダイアログ ボックスを表示します。有効である場合、**テストの実行** ダイアログ ボックスは別のウィンドウにフォーカスがある場合でも前面に表示されたままになります。手動テストの実行中では、**テストの実行** ダイアログ ボックスを前面に表示しておく、簡単にテスト結果を入力でき便利です。使用しているコンピュータの画面が小さく **テストの実行** ダイアログ ボックスとテスト対象アプリケーションを同時に表示できない場合は、この設定をオフにする必要があります。

メイン ウィンドウを閉じる前に SilkCentral Test Manager にワークスペースをアップロードするかどうかを確認

Manual Testing Client を閉じる前に確認画面を表示します。

3. 環境設定を保存するには、**OK** をクリックします。

パッケージのアップロードに関する設定を行う

実行パッケージのアップロードに関する設定を行うには：

1. Manual Testing Client で、**ウィンドウ > 設定** に移動します。 **環境設定** ダイアログ ボックスが開きます。
2. ダイアログ ボックスの **パッケージ** 領域で、**アップロード済みパッケージを削除** チェック ボックスをオンにし、実行計画パッケージが Test Manager へのアップロード後に、Manual Testing Client から自動的に削除されるよう指定します。
3. 次の削除オプション ボタンのいずれか 1 つをクリックします。
 - **直後**
 - **経過後**。このオプションを選択した場合は、日数テキスト ボックスに値を入力します
4. テスト実行の完了後に完了したテスト実行パッケージが Test Manager に自動的にアップロードされるようにする場合は、**完了したパッケージをすぐにアップロード** チェック ボックスをオンにします。

Manual Testing Client で添付ファイルを管理する

このセクションでは、Manual Testing Client で添付ファイルを管理する方法について説明します。

画面キャプチャを貼り付ける

画面キャプチャを直接クリップボードからアップロードするには：

1. コンピュータのクリップボードに画面キャプチャをコピーします。
Manual Testing Client の **結果ファイル** ページの **画像の貼り付け...** ボタンが有効になります。
2. **画像の貼り付け...** をクリックします。
3. **クリップボードからの貼り付け** ダイアログ ボックスで、画像の **ファイル名** を指定します。
4. **OK** をクリックして、コピーした画面キャプチャを添付画像ファイルとして保存します。

添付ファイルを Manual Testing Client にアップロードする

テストの過程で関連する結果ファイル (画面キャプチャ、エラー ログ、他のファイルなど) が見つかった場合は、そのファイルをテストへの添付ファイルとしてアップロードすることができます。

結果ファイルを添付ファイルとしてアップロードするには：

1. Manual Testing Client で、**テスト** ページのテストを選択します。
2. **結果ファイル** タブをクリックします。
3. **ファイルの追加** をクリックし、アップロードする結果ファイルを見つけて選択します。
4. **開く** をクリックして、そのファイルを添付します。

Manual Testing Client で添付画像を表示する

添付画像ファイルを表示するには：

1. Manual Testing Client の **添付情報** ページで、画像ファイルを選択します。その画像が **画像プレビュー** フィールドに表示されます。
2. **画像プレビュー** フィールドの隣にある以下の表示ツールを使用すると、画像を操作できます。
 - 100% 表示
 - 描画領域の幅に合わせる
 - 描画領域に合わせる (縦横比を保存)
 - 独立したウィンドウで開く

Manual Testing Client で添付情報を確認する

Manual Testing Client でテストの添付情報を確認するには：

1. Manual Testing Client で、**テスト** ページのテストを選択します。
2. 選択したテストに関連付けられている結果ファイルがすべて、**添付情報** ページに一覧表示されます。
3. **テスト コンテナ/フォルダ** チェック ボックスや **テスト ステップ** チェック ボックスを使用すると、添付情報のリストをフィルタ処理して、選択したテスト コンテナ、テスト フォルダ、またはテスト ステップに関係する添付情報のみを一覧に含めることができます。

実行パッケージで作業する

実行パッケージをダウンロードする

Manual Testing Client の構成が終わった後、手動テストを実行するには、まず、割り当てられている手動実行計画のコピーをダウンロードする必要があります。




注: 実行計画は Test Manager でオンライン状態のまま変わらず、実行計画のコピーが Manual Testing Client にダウンロードされるだけです。

割り当てられている実行パッケージをダウンロードするには：

1. Manual Testing Client でツールバーの **ダウンロード** をクリックします。
2. 接続情報が正しく設定されている場合、実行計画が Test Manager で開始されると、割り当てられている実行パッケージが **受信箱** に表示されます。

実行パッケージをエクスポートする

ダウンロードされた実行パッケージは Manual Testing Client からエクスポートしたり、Manual Testing Client にインポートしたりできます。これによりテスト担当者が電子メールを使って簡単に実行パッケージを交換できます。ダウンロードされた添付ファイルはエクスポートパッケージに自動的に含まれます。


 **注:** 実行パッケージには .zpkg 拡張子が付きます。

実行パッケージをエクスポートするには：

1. Manual Testing Client で、**受信箱** ページに表示されている実行パッケージを右クリックします。
2. **パッケージのエクスポート...** を選択します。
3. **エクスポート先...** ダイアログ ボックスでパッケージを保存する場所を参照して **保存** をクリックします。
4. エクスポートの成功を示す確認ダイアログ ボックスで **OK** をクリックします。

実行パッケージをインポートする

ダウンロードされた実行パッケージは Manual Testing Client からエクスポートしたり、Manual Testing Client にインポートしたりできます。これによりテスト担当者が電子メールを使って簡単に実行パッケージを交換できます。ダウンロードされた添付ファイルはエクスポートパッケージに自動的に含まれます。

 **注:** 実行パッケージには .zpkg 拡張子が付きます。


実行パッケージをインポートするには：


1. Manual Testing Client で、**ファイル > パッケージのインポート** に移動します。
2. **インポート元...** ダイアログ ボックスでインポート対象のパッケージを参照して **開く** をクリックします。
3. インポートの成功を示す確認ダイアログ ボックスで **OK** をクリックします。

パッケージ ビルド番号を編集する

実行パッケージのビルド番号を編集するには：

1. Manual Testing Client で、**受信箱** ページに表示されている実行パッケージを右クリックします。
2. **ビルド番号を編集** を選択します。**ビルド番号の選択** ダイアログ ボックスが開きます。
3. **ビルド** リスト ボックスから、ビルド番号を選択します。

 **注:** **ビルド リストを更新** をクリックすると、ビルド リストを更新できます。


 **注:** テスト実行が完了するたびにビルド番号の指定を求められるようにする場合は、**パッケージの完了時にビルド番号を要求** チェック ボックスをオンにします。

4. **OK** をクリックします。

テスト結果を Test Manager にアップロードする

完了しているパッケージからテスト結果をアップロードするには：

1. Manual Testing Client で、**テストの実行** ダイアログ ボックスの **実行の完了** をクリックするか、ツールバーの **完了** をクリックして、手動テストを終了します。

 **注:** パッケージのテストに [未実行] ステータスのテストがある場合にテストパッケージのテストの完了を試行すると、**実行の完了** ダイアログ ボックスが表示され、未実行テストの処理方法を定義できます。

2. **完了した実行** タブをクリックします。
3. 完了したテスト実行を右クリックして、**Test Manager へのアップロード** を選択するか **ファイル** メニューの **アップロード** を選択してテスト結果を Test Manager にアップロードします。

 **注:** オンラインで作業している場合は、SilkCentral データベース内の実行計画ステータスが自動的に更新されます。

アップロード時に競合する変更を管理する

アップロード時に競合する変更を管理するには :

1. 手動テストの編集を完了した後、**アップロード** をクリックして結果をサーバーにアップロードします。
2. **はい** をクリックし、サーバー上の **テスト** ツリーに変更をコミットすることを確認します。別のユーザーによる最後の変更と競合する場合は、**テストの競合** ダイアログ ボックスが開き、競合しているテストのリストが表示されます。
3. Test Manager の競合しているテストに直接アクセスして変更内容を表示するには、テストを右クリックして、**テストを Test Manager で参照** を選択します。
4. **変更をアップロード** をクリックすると、他のユーザーによる変更を無視して、Test Manager に変更がコミットされます。したがって、競合のある最後の変更はユーザーの変更により上書きされます。または、**変更を戻す** をクリックすると、変更はテストに保存されません。

変更を戻す を選択した場合、変更は **テスト** ツリーにコミットされません。ただし変更はアップロードしている実行結果に表示されます。変更はテストの次の実行には含まれません。

テスト結果を Test Manager に格納する


Test Manager でテスト結果を Manual Testing Client に格納するには :

1. Manual Testing Client で、**ファイル** メニューの **結果を SilkCentral に格納** を選択します。
2. 代わりに、Manual Testing Client を閉じる際に、ワークスペースすべてを Test Manager へアップロードすることもできます。

Manual Testing Client で内部の問題を追加する

Manual Testing Client では、内部の問題を作成し、外部の問題をその内部の問題にマップすることができます。内部の問題を作成して、外部の問題へマップするには :

1. Manual Testing Client で、**受信箱** タブをクリックします。
2. 実行計画パッケージを選択します。
選択したパッケージに含まれているテストが **テスト** ページに一覧表示されます。
3. **テスト** ページでテストをダブルクリックします。
4. **内部の問題の新規作成** をクリックします。 **問題の新規作成** ダイアログ ボックスが開きます。
5. 各テキスト ボックスを入力します。
6. **OK** をクリックします。

 **注:** この手順を行う際には、オンラインである必要があります。

Manual Testing Client でのコード分析を有効にする

Manual Testing Client で実行計画のコード分析を有効にするには：

1. Manual Testing Client で、**編集 > コード分析設定の編集** に移動します。 **コード分析設定の編集** ダイアログ ボックスが開きます。
2. **パッケージ<パッケージ名>のコード分析を有効にする** チェック ボックスをオンにします。



注：コード分析を有効にすると、Manual Testing Client でテストを実行できます。ただし、テストを実際に開始する前に、**テストの実行** ダイアログ ボックスの **詳細** ページで **コード分析：開始** をクリックする必要があります。これにより、手動テストを実行している間に、Test Manager がコード分析情報を収集します。テストが終了したら、**停止** をクリックして、コード分析情報の収集を停止します。

3. **コード分析プロファイル** リスト ボックスからプロファイルを選択します。
4. **ホスト名** テキスト ボックスに、コード分析情報を収集するホスト名（デフォルト ポート 19129 を使用しない場合は、ポートを付けて）のカンマ区切りリストを入力します。

例：labmachine1, labmachine2:8000, 198.68.0.1。実行計画ごとに、AUT が実行しているマシン リソースのホスト名を定義する必要があります。たとえば、クライアント/サーバー システムでは、クライアント（たいていは実行サーバーで直接実行されている）のコード カバレッジ情報を収集するだけでなく、サーバー（別のマシンで実行されている可能性のある）からもデータを収集する必要があります。このことは、すべてのマルチタイヤ アプリケーションに該当します。



注：JUnit コード分析の実行の場合は、ホスト名を指定する必要はありません。

5. 設定を保存するには、**OK** をクリックします。

Manual Testing Client でオフライン作業をする

インターネット接続にアクセスせずに作業する場合は、Manual Testing Client から Test Manager への自動接続が行われないように、オフライン作業モードを選択します。

オフライン モードで作業するには：

1. Manual Testing Client で、**ファイル > オフライン作業** を選択するか、右下隅にある **オンライン** をクリックします。
2. いったんテストが完了しインターネット接続にアクセスできるようになったら、テスト結果のアップロードに移ります。

テストの実行 ダイアログ ボックス

Manual Testing Client 内で手動実行計画を実行すると、**テストの実行** ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスでは、選択した実行計画に含まれているテスト ステップの実行と、各テスト ステップの結果の追跡を行うことができます。

テストの実行 ダイアログ ボックスには、**説明**、**詳細**、**添付情報**、**結果ファイル**、**問題** の各ページがあります。

説明

編集モードではない場合、**説明** ページには、選択したテストについての読み取り専用の **テストの説明** テキスト ボックスと **テスト名** テキスト ボックスが表示されます。編集モードでは、これらのテキスト ボックスは編集可能です。**独立したウィンドウで開く** をクリックすると、テストの説明の直前に保存したバージョン

ョンが別のウィンドウに開きます。独立したウィンドウは、常に最前面に置かれ、手動テストを補助します。

詳細

詳細 ページには、選択したテストの読み取り専用の説明が表示されます。

このページには、次の項目があります。

項目	説明
テストステータス	テストの現在のステータス。編集モードでは、このテキストボックスは編集可能です。
前回のステータス	以前にテストを実行したときのテストのステータス。
予定時間	テストの完了見積もり時間 (hh:mm:ss)。編集モードでは、このテキストボックスは編集可能です。
使用時間	このテキストボックスは、テスト実行開始からの経過時間 (hh:mm:ss) を追跡記録します。このテキストボックスは、手動で編集可能です。編集中、タイマは停止します。そしてこのテキストボックスの編集後、タイマは手動調整後の時間を起点に追跡を続行します。
開始	コード分析を開始します。コード分析を実行するホスト名を入力します。
テストステップ	選択したテストに含まれているテストステップが一覧されます。 テストステップ セクションでは、Windows の標準キーボードショートカットを使用して、複数のテストステップを選択できます。選択したテストステップのステータスを変更するには、ステップを右クリックして、新しいステータス値を選択します。
結果	テスト担当者が確認した各テストステップの結果。このステップが完了したら、このテキストボックスを編集します。
ステータス	各ステップのステータス。このステップが完了したら、このテキストボックスを編集します。
ステップの説明	このステップに対して行わなければならないアクションを説明します。
期待される結果	各テストステップの期待される結果、もしくは成功条件。

テストの実行 ツールバー

テストの実行 ダイアログ ボックスには、次のツールバーがあります。

ツールバ 説明

—

テスト テスト実行中の手動テスト ステップを管理するために使用します。このツールバーには、次の項目があります。

項目	説明
ステップの新規作成	テストステップ リストの最後に新しいテストステップを追加します。

ツールバ 説明

—

項目	説明
ステップの挿入	テストステップ リストで、選択したテストステップの上に新しいテストステップを挿入します。
複製	テストステップ リストで、選択したテストステップのコピーを作成します。
削除	テストステップ リストの選択したテストステップを削除します。
上へ移動	テストステップ リストの選択したテストステップを1つ上に移動します。
下へ移動	テストステップ リストの選択したテストステップを1つ下に移動します。

テキストの書式設定 テストの説明、ステップの説明、期待される結果の各記述の書式を設定するために使用します。パラメータをクリックすると、説明にパラメータを挿入することができます。このツールバーには、次の項目があります。

項目	説明
太字	選択したテキストに太字の書式を適用します。
斜体	選択したテキストに斜体の書式を適用します。
下線	選択したテキストに下線の書式を適用します。
左揃え	選択したテキストを左に揃えます。
中央揃え	選択したテキストを中央に揃えます。
右揃え	選択したテキストを右に揃えます。
両端揃え	選択したテキストに両端揃えを適用します。
箇条書き	選択したテキストを箇条書きに変換します。
インデント解除	選択したテキストのインデントを左に移動します。
インデント	選択したテキストのインデントを右に移動します。
元に戻す	テキスト記述テキストボックス内で実行した最後のアクションを元に戻します。
やり直し	テキスト記述テキストボックス内で実行した最後のアクションをやり直します。
フォント	選択したテキストに、異なるフォントタイプを適用します。
フォントサイズ	選択したテキストに、異なるフォントサイズを適用します。
書式	選択したテキストに、あらかじめ定義されている異なる書式スタイルを適用します。たとえば、[ヘッダー 1]、[ヘッダー 2] などです。

ツールバ 説明

—


項目	説明
パラメータ	あらかじめ設定されている Test Manager カスタム ステップ プロパティ (「プロジェクト パラメータ」とも呼ばれる) を、テキスト記述に挿入できます。編集モードでない場合、解決されたパラメータの解析値が表示されます。編集モードでは、実際のパラメータがダイアログ ボックスに表示されます。

ナビゲーション 手動テストの実行を管理したり、テスト間を移動するために使用します。このツールバーには、次の項目があります。


項目	説明
編集	選択したテストのプロパティを編集します。
内部の問題の新規作成	選択したテストへ内部の問題を追加します。
問題へ移動	選択した手動テストの問題を Test Manager で参照したり、そのテストに新しい問題を割り当てます。
前のテスト	手動テスト実行における前のテスト ステップに戻ります。
次のテスト	手動テスト実行における次のテスト ステップに進みます。
実行の完了	アクティブな手動テスト内のすべてのテスト ステップが完了したら、 テストの実行 ダイアログ ボックスを閉じます。

Manual Testing Client でのビデオ キャプチャ

Manual Testing Client ではテストのビデオをキャプチャできます。キャプチャしたビデオは、Manual Testing Client の結果ファイルに追加できます。ビデオをキャプチャすると、たとえばテスト中にエラーが発生した場合にビデオを分析できます。

 **注:** 現在、ビデオ キャプチャは Microsoft Windows オペレーティング システムでのみ有効です。Windows 2008 システムでビデオ キャプチャを使用するには、次のサーバー機能をインストールする必要があります。

- デスクトップ エクスperiエンス
- 高品質な Windows オーディオ ビデオ エクスperiエンス

 **注:** 録画されるのはシステムのメイン ディスプレイです。セカンダリ ディスプレイはビデオに録画されません。録画中は、一部のタスクが有効になりません。これらのタスクを実行するには、録画を停止してください。

Manual Testing Client でビデオを録画する

Manual Testing Client でビデオ キャプチャを有効にするには :

1. Manual Testing Client の **受信箱** で、実行するテストを含むパッケージをクリックします。選択したパッケージに含まれているテストが **テスト** ページに表示されます。
2. 実行するテストをダブルクリックします。 **テストの実行** ダイアログ ボックスが開きます。
3. **詳細** タブをクリックします。 **詳細** ページが開きます。
4. **テストの詳細** セクションで、**ビデオ録画** の **開始** をクリックします。赤いボタンは、テストのビデオを録画中であることを示しています。
5. 録画を止めてよければ、**ビデオ録画** の **停止** をクリックします。 **ビデオを結果ファイルに追加** ダイアログ ボックスが開きます。
6. ビデオ ファイルの名前を入力して **OK** をクリックし、ビデオを保存するか、または **キャンセル** をクリックしてビデオ ファイルを削除します。テストの結果ファイルにビデオが追加されます。
7. ビデオを表示するには、**結果ファイル** タブをクリックしてビデオ ファイルをダブルクリックします。

索引

M

Manual Testing Client

- UI の概要 4
- アンインストールする 10
- インストールする 9
- オフラインでの作業 16
- 概要 4
- 画面キャプチャを貼り付ける 12
- 起動 9
- 競合する変更を管理する 15
- コード分析を有効にする 16
- 実行パッケージをインポートする 14
- 実行パッケージをエクスポートする 14
- 実行パッケージをダウンロードする 13
- 接続パラメータを設定する 11
- 設定する 11
- 設定を行う 11
- テスト 10
- テスト結果をアップロードする 14
- テスト結果を格納する 15
- 添付画像を表示する 13
- 添付情報を確認する 13
- 添付ファイルをアップロードする 13
- 添付ファイルを管理する 12
- 内部の問題を追加する 15
- パッケージのアップロードに関する設定を行う 12
- パッケージ ビルド番号を編集する 14
- パラメータを挿入する 11
- ビデオ キャプチャ 19

あ

- アップロードする
 - Manual Testing Client からのテスト結果 14
- アンインストールする
 - Manual Testing Client 10

い

- インストールする
 - Manual Testing Client 9

お

- オフラインでの作業
 - Manual Testing Client 16

か

- 格納する
 - Manual Testing Client からのテスト結果 15

き

- 起動

Manual Testing Client 9

し

- 実行パッケージ
 - Manual Testing Client からエクスポートする 14
 - Manual Testing Client にインポートする 14
 - Manual Testing Client にダウンロードする 13
 - 概要 13
 - ビルド番号を編集する 14
- 実行パッケージをアップロードする
 - 競合する変更を管理する 15
- 手動テスト
 - Manual Testing Client 10

せ

- 接続パラメータ
 - 設定する 11
- 設定する
 - Manual Testing Client 11
 - Manual Testing Client 接続パラメータ 11
 - Manual Testing Client の設定 11
 - Manual Testing Client パッケージのアップロードに関する設定 12

て

- テストの実行
 - ダイアログ ボックス 16
- 添付画像
 - Manual Testing Client で表示する 13
- 添付ファイル
 - Manual Testing Client で表示する 13
- 添付ファイルをアップロードする
 - Manual Testing Client 13
- 添付ファイルを管理する
 - Manual Testing Client 12

な

- 内部の問題を追加する
 - Manual Testing Client 15

は

- パッケージ ビルド番号
 - Manual Testing Client で編集する 14
- パラメータ
 - 挿入する 11
- 貼り付ける
 - 画面キャプチャを結果に 12

ひ

- ビデオ キャプチャ

Manual Testing Client 19
ビデオを録画する
Manual Testing Client 19
🔒
有効にする

Manual Testing Client でのコード分析 16